第２回　滋賀県観光事業審議会　議事概要

1　日　時：平成 27 年 7 月 29 日(水)　14:00～16:04

2　場　所：第３委員会室

3　出席者：(敬称略　50 音順)

◯委員：礒田　陽子、　上田　洋平、　頴川　尚子、　王　小娟、　川戸　良幸、
古株　つや子、佐々木　寛子、佐藤　典司、　佐藤　祐子、眞田　達也、
塚本　八重子、辻本　建、　殿村　美樹、　松宮　智之、吉井　茂人

◯オブザーバー：岩﨑　靖彦、　廣脇　正機

＜開　会＞

商工観光労働部　福永部長あいさつ

〇日頃は、本県の商工観光行政にそれぞれのお立場で、御理解と御支援を賜っていますことに対して、改めて御礼を申し上げる。

〇昨今の本県観光の状況としては、国内ではようやく景気が回復して来ている。また、非常に円安が進んでおり、御存知のように東アジアあるいは東南アジアにおける所得の増加や、ビザの緩和であるとかＬＣＣ就航の拡大などの様々な要素が絡んで、日本全体で訪日外国人の観光客が増加しており、本県おいても非常に増加している。また、昨年度は、ＮＨＫの大河ドラマの「軍師官兵衛」が放送され、それをきっかけとして色んな誘客活動をさせていただいた。また、映画のロケ地観光の取組も進めている。その結果、観光庁が行っている宿泊の調査では、本県の平成２６年の宿泊者数は、２５年に比べて１３．６％増えて約４６３万人となった。その内、外国人の宿泊者は前年より７５％増えた。人数はまだ２３万人ということだが、率では山梨県についで全国２位という状況で、急激に増えている状況である。

〇そのような中で、平成２７年度においても、前回の審議会において御議論いただいた「滋賀県『観光交流』振興指針アクションプラン」に基づいて、国の地方創生の施策も活用しながら、今年度は重点的に観光施策を進めている。また、今後とも海外へのプロモーション活動や多言語対応のおもてなし体制の強化などにも取り組みたいと考えている。

〇さらに、本年４月には、文化庁が創設した日本遺産（Ｊａｐａｎ　Ｈｅｒｉｔａｇｅ）に本県からも申請し、全国で１８が認定された内の１つに、「琵琶湖とその水辺景観－祈

りと暮らしの水遺産」を認定いただいた。非常に有り難いことだと思っている。また、６月には、観光庁の県域をまたがる広域観光周遊ルートの事業において、関西の「美の伝説」と中部の「昇龍道」という２つの周遊ルートが選定された。このような広域の取組の中で、本県の観光地の魅力発信に取り組んでいく必要があると考えている。

〇ところで、日本は人口減少ということで、人口が増加していた滋賀県においても、昨年１０月以来人口が減少局面に入ったということである。本日の資料にもお配りしているが、地方創生の総合戦略を今、県で作っている。人口減少社会においては、定住人口は減っていくかも知れないが、交流人口を増やすことにより地域の経済に活力を生み出す必要があるということで、観光をキーワードに地域づくりや地域振興を進めていくことが、今後の地方創生の大きな課題であると認識している。

〇本日は、本年度のアクションプランの目標設定や、昨年度のアクションプランの評価について、皆様方からご意見をいただきたいと思っている。また、今後の地方創生あるいは平成２８年度に向けた施策構築についても、忌憚のない御意見を頂戴したいと思っている。

〇最後になるが、本県には、日本一の琵琶湖をはじめ、豊かな自然や多くの文化財、地域に根ざした生活文化といった豊富な観光資源がある。こういった観光資源を本日お集まりの委員の皆様方のお知恵をお借りしながら、行政の立場としても観光振興施策を一層推進してまいりたいと考えているので、本日の審議会、どうぞよろしくお願いする。併せて、知事が昨日の記者会見でも申していたが、滋賀県の認知度はまだまだ低いと言われている。これに関しては観光だけではなくブランド等の様々な戦略があると思うが、そういう認知度アップにも当部としても一生懸命に努めてまいりたいと思う。そういった観点からも御意見をいただければと思っている。

（会長）

〇お手元に次第があって、議題が（１）から（４）まである。最初の１時間で、議題の（１）、（２）を、後半の１時間で議題の（３）、（４）を行い、４時に終了したいと思う。委員の皆様には闊達に意見を出していただき、県の行政に反映してもらうようにお願いしたい。会議の進行に御協力いただくようお願いする。

〇それでは、早速、議題に入りたいと思う。

議題１の平成 27 年度滋賀県「観光交流」振興指針アクションプラン対象事業の目標設定については、前回の審議会で御議論いただいた本年度のアクションプランについて、対象事業毎に目標を設定されたものである。また、議題２の平成 26 年度滋賀県「観光交流」振興指針アクションプラン対象事業の評価については、昨年度のアクションプランの対象事業として実施された事業について、その実施結果を評価されたものである。
議題１と２は、アクションプランを策定し、その結果を評価しながら、「観光交流」振興指針で定める目標に向かって、効果的に事業展開することで関連するので、一括で説明いただいた後、委員の皆様から御意見をいただきたいと考えているので、よろしくお願いする。まず、事務局から説明をお願いする。

議題１　平成 27 年度滋賀県「観光交流」振興指針アクションプラン対象事業の目標設定について

議題２　平成 26 年度滋賀県「観光交流」振興指針アクションプラン対象事業の評価について

事務局より資料に基づいて説明

事務局より資料１～４について説明があった。

欠席委員からの意見

欠席された委員の意見について報告があった。

〇アクションプランの評価においては、例えば、単にその事業でパンフレットを何部配布したということを、まとめているだけでは不十分と言える。それぞれの事業の長期的な目標は何で、何故その方法を選択し、個々の事業ごとにＫＰＩを設定して、どの程度の成果があったのか、また費用対効果はどうであったのかが、説明されていなければならない。県庁内の異なる部署で観光振興に関する事業が行なわれているが、それらすべての実態を観光部局が把握し切れているとは言いがたい。県全体の観光施策を一元的に管理し評価していく仕組みも必要であろう。

委員意見、質疑

委員から出された意見および質疑の概要は次のとおりである。

（会長）

〇資料の１、２、３、４を説明いただいた。どこからでも活発に御意見を出していただこうと思う。どなたか口火を切っていただければと思う。

（委員）

〇随分まとまってきた気がする。アクションプランを作って、この１つ１つの課題に取り組んで行き、ＰＤＣＡを回すことが大事ということが改めて見えてきたと思う。先々週、大津市でインバウンド関係のアクションを起こすために、市長と一緒に台湾に行って来た。市町は市町で同じように観光交流、観光振興について、色々な取組を進めているが、改めて思うのが、県とびわこビジターズビューローと市町との連携である。琵琶湖、滋賀県というと１つにまとめるのが難しい。どうしても曖昧だという意見が前回あったと思うが、逆にそれが、それぞれの市町の良さであり、琵琶湖、滋賀県の良さであるというような発想にもなるのではないかと思う。滋賀県は、琵琶湖の環境というか自然をベースにする。各市町は、それぞれの活動の中で、県とタイアップしてアクションプランに組んでいくのも有効的ではないかと思う。その辺りのことは資料の中には出て来ていないように思うので、検討してみることも必要ではないかと思う。

〇今、ＳＮＳの時代になっていると思うが、滋賀県がＳＮＳで発信する場合に、ハッシュタグを付ける時に、バラバラで多岐にわたる。例えば、「琵琶湖」も表現が３つ。英語表記も入れると４つある。「琵琶湖」、「びわ湖」、「びわこ」、「ＢＩＷＡＫＯ」。これを統一する。滋賀県は「滋賀」か「滋賀県」のどちらにするのかとか。そういうことって単純なのだが、非常に大切なことだと思われる。この際、インバウンドのお客様を取り込むのであれば、ローマ字ベースで統一してハッシュタグ化するとか。そんなことを滋賀県から発信ができないかと、実はずっと前から思っている。特にインスタグラムなどでは、それだけで集客を高めて旅館の売上を上げている、インバウンドをメインにしている旅館が東京方面に非常に増えてきている。２０１０年頃から特化してやってきた結果、実績が伴ってきているということを聞くので、その辺りも少し検討してもいいと思う。結構テレビでホームページのこれをクリックみたいなのがある。そういうキーワードをまとめても面白いと思う。

（委員）

〇全体的に思うのだが、滋賀を丸ごとブランド化とか、全部を発信するとか、普遍的な表現ばかりが目に付く。社会の価値観も変わっているので、ビワイチとか滋賀・びわ湖ブランド等についても、誰に向けてなのかを明確に示さないと、誰も理解できないと思う。だ

から、カテゴリー別にして「誰に何をどのように提案しているのか」を明確にすることを提案する。インバウンドに関しても、外国と一括りにせず、ヨーロッパ向け、アメリカ向け、アジア向けというように、しっかりとターゲットを示さなければと、情報が拡散して全くわからなくなってしまうと思う。今は、インターネットの影響で、情報がワールドワイドに発信される時代なので、ブランドという漠然とした表現ではもう１つの戦略を示したにすぎない。実際のターゲットには、それだけでは届かないので、ターゲット別に分けることは必須だと思う。

（会長）

〇本当にその通りで、セグメンテーションとターゲティングということ、なおかつ、滋賀県といっても色んなエリアもある。今は、ＳＮＳなどで細かく分けてマーケットに届ける手段が出来ているので、良いご意見をいただいたと思う。

（委員）

〇ＳＮＳなどが広まってきていて、滋賀県は何を発信するかというと、みんな琵琶湖と言う。しかし、琵琶湖に行くには車がないと行けないし、結局は交通手段だと思う。琵琶湖に重きを置いて集中させるのであれば、電車に乗って、バスに乗ってということがあるのであれば、予算的なことも絡んでくるが、自転車を各ステーションに配置して、乗り捨てという形で回していくことができないか。どこで乗り捨てても良いシステムが滋賀県全域でできれば利用の幅も広がると思う。実際されているところもある。そういうシステムは結構便利で、地元の人が使っても良いし、地域が活性化していくと思う。

（委員）

〇自転車では大抵、ステーションがあって、みんな黄色なのだがロック式になっていて、カードをかざすと解除できて、乗っていってこっちでまた止めてっていうような仕組みになっている。あれは凄く素敵だと思う。そんなのが出来るといい。

（会長）

〇確かに自転車は、平坦な地形である滋賀県の強みを活かせる良い交通手段ですね。委員からの御指摘は、１つは、実は琵琶湖は不便だということ。実際そうだと思う。滋賀県全体の統一性を阻害している。琵琶湖の対岸が非常に遠いのをどうするかという課題。もう１つは、自転車を地元の人が使ってもいい。これは凄く良いと思う。観光のインフラで作ったけれども、実は地元の人も使える。やがて滋賀県も高齢化していって、人口が減って

いくおそれが大きいので交流人口を増やすということですが、観光インフラで作ったものが、実は地元の人の役に立つという良い御指摘をいただいた。

（委員）

〇自転車で関連してふと思ったのだが、車にはカーナビがある。自転車にナビは付けないのか。そういうものの研究開発をするために予算を取るとか、技術的なことは分からないが思った。

〇もう１つはキャッチコピーです。滋賀県の知名度が１番低いというのが出ているわけだが、滋賀県と琵琶湖が結びついてないわけですね。その辺でキャッチコピーをどうするのかということ。琵琶湖は誰もが知っているが、それが滋賀県と結びつかない。

〇滋賀県は琵琶湖だけじゃない。今の日本になる歴史的な天下統一の通り道になっている。そういった歴史の交差点というか未来への交差点というか、そういった歴史のことが余り丁寧に出てこない。また、歴史に関して県の関係各課で予算付けしているが、ある専門的に工芸品や文化財の修理を扱っている会社のイギリス人の社長がおっしゃっていたが、日本は文化財にお金を余りにもかけない。県の文化財指定もあるし、補修については歴史街づくり事業でなおせるものもあるが、県としてその辺の予算が十分に取れているのか。それから有名な神社、仏閣に行っても、何年に出来たという程度で、そのお寺やお宮さんはどういった目的で建造されて、どう伝わってきているかという、歴史的建造物のストーリーが全然分からないと、外国人観光客の方は結構おっしゃっているようである。

〇まずはキャッチコピーで知名度を上げるために、琵琶湖と滋賀が一致しているのだと。それから歴史深い県ですよとか、アウトドアに向いているとか、先ほども出ていた色んなカテゴリーをきっちりとして、伝えていくべきだと思う。

〇それからビワイチで私共が会社をやっている安藤家について、北大路魯山人の関係の掲載していただいた。それで思ったのだが、突然来て、デジタルで写真を撮られて、余り詳しい話を聞いてもらえなかった。また、それなりの情報は載っているが、もう少しスマートに編集できないのかという感じを持った。経費もかかることなので、しょうがないのかという思いはしているが。

（委員）

○自転車の話が出たので、本学は彦根の八坂という湖岸にあるが、去年、本学が持っている土地にファミリーマートが出来た。土地を貸してファミリーマートを作ったが、そこにアドバイスして、ビワイチをやっているので、沿道から見えるところに自転車を引っ掛ける、鉄棒みたいなものを置いた。それだけで、ファミマに自転車の人が立ち寄る。そういう沿道のサービスだけでも人は立ち寄るのだと、価値があるのだと実感している。道の駅とかにそういうものが見える形でないのは勿体ない気がする。併せて、何か共通してビワイチのものが、それぞれ沿道のコンビニとかに置いてあると、もっと繋がりとしては面白いと思う。

○琵琶湖の話が出たが、私の専門からすると、琵琶湖をどう考えるかというのがあるが、これは大陸アジアとのつながりの中で、アジアの回廊の中の１つで、鮒ずしが通ってきた道ということもあると思う。そういう意味で、模式的に言うと、南北には文明、経済の軸が滋賀県の中にある。もう１つは、「ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴ」と言うか、滋賀県は山から琵琶湖までの繋がりが、非常にコンパクトに体験できる場所でもある。湖西の比良なんかに行くと、本当に山の水源から琵琶湖までを歩いて２時間ぐらいで辿れる。東近江、湖東の方へ行くと、鈴鹿の山から琵琶湖まで辿れる。東近江市長が言っておられたが、森と水政策課というのを立ち上げて、スポーツメーカーと一緒に、「ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴ」の事業を何か起こそうとされている。非常に長い距離の泊りがけで活用できる資源について、東近江市の小椋市長はこの間一生懸命に話しておられた。生命、文化の軸のつながりと、経済文明の軸のつながりの交わりが、琵琶湖・滋賀というのは面白いと思う。森、里、湖については、高島で森、人とか谷口局長がされていたと思うが、その観点も１つだし、ビワイチで来て奥へ縦に入っていくルートもある。また、対岸が遠いと言われたが、船と自転車の相性というか、つながりはどうなのか。委員に聞いてみたいと思う。

○資料４の大きな紙の一番下に、結構大事なことだと思うのだが、課題のところに、「滋賀県観光の状況を客観的にデータに基づいて分析できていない」という課題は、かなり気になる。この辺は具体的にどういう感じなのか。これは基本だと思う。データも顕在的なデータと潜在的なデータがある。例えば、合宿利用とかで学生達が隠れて利用しているとか、民泊は数えられているのかとか、そういう拾えていない部分があるのかも知れない。どういうデータをどういうふうに活用するかもしっかり考える。僕らも気にかけて、提示していかないといけない。

○学生、地域住民による観光交流の推進という所では、なかなか大学の末端の教員のとこ

ろまで、観光事業に関して、県とタイアップしてやっていこうという声が聞こえてこない。もっと色んなアプローチがあって、協力できることがあるのではないか。今、担当授業で実習系を組み立てる最中のものもあったりするので、実習系の授業を一緒に作るとか、そういうのを学生と一緒に考えさせるとかはあると思う。

〇琵琶湖は求心力を持たないかも知れないが、例えばこの間、余呉の人の相談に乗っていたが、余呉と敦賀とのつながりも可能性がある。昔、敦賀は滋賀県だったというのもある。敦賀の先には中国、大陸がある訳ですから、これから発展していくところで、日本の入口になっていく可能性がある。また、例えば、永源寺の一番奥、君ヶ畑あたりは、名古屋と１時間、京都と１時間半位。トンネルができると県域を超えたつながりが開けていく。滋賀に来ていただいて、そちらにもあちらにも行けるというつながりもあると思う。

（会長）

〇７つおっしゃったと思う。まず、自転車をつなぐ棒、私も高島のセブンイレブンで見ましたが、何か鉄棒みたいなのがあって自転車をかける。あれは確かにいいですね。そういうインフラを整備しながら、そこへ統一感を持たせるのが必要だというのがあったと思う。次は、琵琶湖だけではなく山から湖というポイントが大事だとおっしゃった。それから、後で委員に御意見をお願いしたいが、船と自転車ですね。これはどうかならないかという問題。それから客観的データが足りないという課題。これは前回委員が力説されたので繰り返しません。後は、大学とのコラボがもっと可能ではないか、これは後ほど佐藤先生にも御意見をいただこうと思う。県の観光を進めるのに大学が使いこなせていないアセットではないかという御指摘だったと思う。それから最後は、君ヶ畑と三重県とのことをおっしゃったと思う。それぞれ隣接している他府県との連携ですね。大津だったら京都でしょうし、土山の方だったら、三重県でしょうし。実は琵琶湖が阻害しているということもあるので、隣合わせの他府県や他県の市町村との連携も大事ではないですかという御意見をいただいたと思う。それでは、委員に自転車のみならず、御意見をいただきたいと思う。

（委員）

〇県庁の職員は余りにも公務員らしく仕事をし過ぎている気がする。分かり易く言うと、観光振興という池の中に自分たちで石を投げているだけで、それで波が立っていて、大きな波になるところや、波がつぶしあっているところとか色々で、結局、石を投げ続けないと続かない。それよりも石を投げなくても持続できるようなプランを作っていかないといけない。池に石を投げるというアクションプランより、神輿を担ぐ人を出来るだけ集めて、

その神輿をできるだけ高く上げていくように、日吉のお祭りのようにより高く上げていく。滑って落ちてもそこで耐えられるような、神輿の持ち方をどれだけの人でできるかという、プラットフォームという高いレベルにもっていく。そして、そのプラットフォームを１段でも上へ上げていくというやり方をやっていくということが１つ。

〇今まで観光振興ということで、私たち観光事業者もやっていたが、やはり地元の皆さん、特に公務員の仕事ですが、最終的に公務員は全部逃げるのですね。「それは市民のため、県民のためになりますか」と。「外から来る観光客のためにはなっていると思う。県民のためになるのなら私たちは一生懸命にさせてもらうが、県民のためにならなかったら、観光事業者のためには余り協力はできませんよ。頑張ってやってください」というような意識がある。今、観光交流ということで、私たち観光事業者が県や市に求めていることは、県民なり、市民が抱えている、交通弱者、買い物弱者、生活弱者や文化の弱者の問題がある。どういうことかと言うと、東京の人の方が滋賀県の人より滋賀県を良く知っている。滋賀県民が知らないことも、東京の人は知って観光に来られる。県民に聞いてもほとんど答えられないような文化弱者を置いておいて、他府県で一生懸命にＰＲしている。東京の人に白洲雅子さんのことを良く知ってもらって来てくれるのに、観音寺の周りの隠れ里の人が本当に全て白洲雅子のことを知っているのかという文化弱者。観光振興と言いながら、地域の皆さんに弱者、ギャップがあって、ブランド力がないということになっているのではないかと思う。

〇それから連携にしても、単に地域での連携だけでなく、先ほども出ていましたが、京都、大阪と連携する。大津、湖南エリアであれば、京都がもっと観光で振興すれば、大津の人が仕事に行ける。就業の機会が大津の人に生まれる。大津に住んでいながら京都で仕事をして、大津で暮らしが豊かになるというのも、観光交流の１つである。自分の所で１から１０まで全てやって、京都には負けるな、滋賀県は頑張るぞという感じでやるより、逆に京都にもっとお客さんを来させて、８，０００万人とか１億人になったら、絶対に大津に２，０００万人位は流れてくる。そっちのほうが手っ取り早い。大阪、京都の地域にありながら、連携というものが県内の市町との連携だけになり過ぎている。

〇人でもそうだが、こういう会議になると大阪とか京都の人、それから東京の人に参加してもらいながら、具体的に進めるときには地域の人だけでやってしまう。できるだけ大阪とか京都の先生やアドバイザーをもっと入れる。具体的に進めるときにも色んな意見が要るような気がする。こういうことに対して、しっかりと最後までやり抜く所までを支援す

る体制ができるといいと思う。

（会長）

〇大所高所からの良いご指摘だったと思う。行政には少し耳が痛かったかもしれません。委員、水上交通、インフラ絡みでは何かありませんか。

（委員）

〇２次交通アクセスということで、今、地元のレンタカー会社とか、レンタサイクルの会社とかと、湖上交通や港なりとの連携をしている。また、自転車を積んだり、自転車で移動されるときでも、先ほどおっしゃったような、パーキングのし易さといったところも含めて、連携も考えて是非やっていきたい。

〇私の持論なのだが、普通の町は明治以降の振興で歴史、文化が作られているところが非常に多いが、滋賀県の歴史、文化では、琵琶湖は奈良時代、平安時代から非常に長い歴史の中で、交通網では、最初、陸の道があって、その後、車の道、鉄の道になって、車の道の陸の道になっている。滋賀県の持っている文化をズタズタにしながら、道を縦横にしてクロスし過ぎていて、地域の文化が非常に結集しにくくなりつつある。そこで、今、進めているのは、バス停とかの名前でも、昔の分かりにくいかもしれないが、もっと文化的な名前、行政の分かり易い何丁目とかいう名前ではなく、何々神社前とか、何々史跡前とかいう名前に、変えられるバス停は、地域の宝として名前を変えていく。それでバス停が１００メートル、２００メートル移動しても、地域の人に対してもバス停が無くなるより、その方がよい。地域の誇りになるような名前、町名も行政で色んなハイカラな名前に変えていただいているが、昔風の名前が無くなることで、明治以降にできた町はそれでも全然問題ないと思うが、明治以前の町の名前をもっている都市からすると、名前を変えられることによって文化弱者が非常に多くなる。交通事業者として一生懸命推進して、何とか観光交流ということで、観光客だけでなく地元のみなさんも利用できる交通ネットワークとして、自転車、２次交通も推進できる体制をとりつつある。もう少し待っていただきたい。

（会長）

〇キーワードとして「文化弱者」というのをおっしゃった。なかなか良い御指摘だと思う。御意見活発に出始めているが、後半の議題に進めさせていただく。後半は、これからの観光施策の構築というところで、参考資料の定住促進のデータも踏まえて議論していこうと思う。

議題３は、政策課題協議等に向けた観光施策の構築について、議題４は、今後のスケジュールということです。事務局からご説明をお願いする。

議題３　政策課題協議等に向けた観光施策の構築について
議題４　今後のスケジュールについて

事務局より資料に基づいて説明

事務局より資料１～３について説明があった。

欠席委員からの意見

欠席された委員の意見について報告があった。

〇今後の観光施策の構築においては、まず、滋賀らしい観光とは何かを整理し、その上で、国内、インバウンド等の将来の状況を見据えて目標を設定する。一方で、県・市町村・観光協会等の役割分担等の推進体制の見える化を図り議論する。そして、全県的に観光まちづくりに関する理解」を深め、やる気のある地域からのエントリーを受付け、民間も含めて合意形成等を支援する事業を行っていく必要があるのではないか。

委員意見、質疑

委員から出された意見および質疑の概要は次のとおりである。

（委員）

〇人口減少を見据えての戦略というものは素晴らしいと思う。その実現に向かって県民も考えなければならないことが一杯あると思う。私の立場からすると観光事業者ということもあるので、もっと地域の人が自分の町の文化を知るということが、一番大事なことではないかと思っている。私は唐橋の島の中にいるので、唐橋にまつわるお話とか文化をお客様に伝えるのが、私の仕事だと思っているが、やはり地域で色んな立ち上げをするにしても、地域の文化が一番大事なので、それを基本に置いた観光施策、琵琶湖ということではなく、地域を今までどのように守って来られたのか。その中に琵琶湖があり、山がある。そういう考え方も１つなのではないかと思っている。お祭りとかを継続するためにも、盛り上がりのある街づくりを、提唱していかなければならないと思っている。

（委員）

〇先ほどから、文化弱者という言葉が出ていたが、私は観光ボランティアをしていて、県からも補助金をいただいて、資料４の６ページの下のほうにも載っているが、年に１回市町で担当を決めて県全体の交流研修会をさせていただいてレベルアップをさせてもらっている。四国八十八箇所巡りとか、西国三十三番霊場巡りとかがあるが、滋賀県に観光客を誘客するのに、滋賀県で何かを巡るテーマを１つ決めて、御朱印帳のようなものを作ると、１回来て回れなかったところを、次に来て回ることもできるので、そういう取組があっても良いと思っている。

（委員）

〇先ほどの議論に戻ってしまうかもしれないが、アクションプランの策定について、少し御提案を申し上げる。例えば、アクションプランの目標数値として観光入込客数などを定めているが、３つの目標に関しての数値目標が定められていない。例えば、目標１の認知度については、冒頭の福永部長の話で、知事が滋賀の認知度が低いと会見で話されたということだが、それは何かの数字に基づいておっしゃっていると思う。ＰＤＣＡサイクルを回していくのであれば、その数字をベンチマークしていって、どういう数値になるのかといった形での目標設定が必要ではないか。目標２のツーリズムの展開でも、商品化になった商品の数であるとか、それによって何人増えたとかいった形での目標が必要なのではないか。目標３についても、委員がされているボランティアガイドの養成で、何かの資格の有資格者を何人にするという形の数値目標を定めて、それでＰＤＣＡを回していくということが必要なのではないか。

　また、資料４の中の２ページ目に、ビワイチ観光素材の数を１５件という目標を立て、これを達成したとしているが、マーケティングの発想からすると、集客人数に持っていくべきなのだろうと感じた。

　人口減少を見据えて豊かな滋賀県総合戦略の参考資料、こちらの資料は、ＫＰＩという形で具体的な基本目標が記載されていて、分かり易いと思った。アクションプランの評価は基本的な数値目標がないので分かりにくいと思う。

〇委員からも、例えば、京都、大阪との連携があってもいいのではないか、そこに来た方に、滋賀にも来てもらいたい、そういう施策をというお話があったと思う。これについて、資料３の平成２７年度の主な事業の２つ目の観光消費喚起事業で、たまたまグループの日本旅行が今回、滋賀ふるさと旅行推進事業を受託したと思うが、日本旅行と話をしていたら、県との話の中で、例えば、滋賀に１泊、京都に１泊というプランは対象に含めていないという話を聞いた。５割引きということだが、そのまた半額、何かそうい

う仕組みに持っていければ、京都に１泊してついでに、もう１泊滋賀にということもあるのではないか。逆に滋賀と京都という組み合わせもあるだろうが、これは今日の審議会の全体の議論とは少し異なるかもしれないが、そういったことも検討いただければと思う。

（会長）

〇数値目標の設定が必要ということ、定性的でなくできるだけ定量化してＰＤＣＡを回す。マーケットインに基づく数値設定が大事という御指摘をいただいたと思う。それから何か目標をクリアしたがどうか、その定義をしっかりした上での数値設定をおっしゃった。最後には、京都、大阪で一杯あふれている、特にインバウンドの人、東京からの人を滋賀に引っ張り込むのに、提携というか色んな取組が必要であろうという御指摘をいただいた。

（委員）

〇事業所を見に行く機会が度々あって感じたことだが、愛東マーガレットステーション、アクセスは良くないけれども、アグリビジネスがベースになっていて、エコの地域循環型モデルであり、道の駅的なお店もある。さらに対象を広げて、地域住民と外国人を含む観光客が気軽に立ち寄れ、交流の場になる全員参加型の施設になれば良いと思う。地域の道の駅の幅を広げたような施設があれば良いと思う。実際行かれた方はとても良い感想をもたれるが、認知度はそれほど高くなく、課題は多い。外国から来られる方は、滋賀県では自然豊かな田舎の方を注目されている方が増えている現状があり、国内でも「田舎暮らし」が静かなブームになっている。「アグリビジネス」も最近よく聞かれるようになった。県内でもこれから女性を中心とした活躍の場の一つとしてアグリビジネスが推奨されており、いくつか講座も開かれている。やはり自然環境に恵まれた滋賀県では、アグリの強みをどんどんアピールしていけば良いと思う。老若男女、障害のある人ない人にかかわらず、携わっていける活動だと思う。雇用の面では、まだまだ課題があると思うが、人口減少の暮らしに与える影響である「コミュニティの弱体化」や、「地域の活力の低下」などをくいとめる効果もあると思う。地産地消、地域コミュニティの強化、すべての人が活動参加できる場を「三方よし」につなげるモデル県として、全国に滋賀県の魅力を発信していければと思う。

〇大津を離れて北の方へ行くと本当に空き家が目立つ。恵まれた土地で勿体ないと思う。アメリカのミシガン州にはランドバンクという組織がある。長年放置された空き家を、

不動産の投資家に渡る前に、ランドバンクに一旦管理してもらう。実情を踏まえた上で地域のコミュニティの場などへ有効利用する。勿体ない状態の広い土地、空き家などを利用して上記のような施設が増えていけば良いと思う。

（会長）

〇観光は裾野が広いので、どんどん広がっていく。アグリビジネスとか田舎暮らし、子育てに田舎暮らしを合わせると、地元の人と田舎暮らしでショートステイされる方との交流も出てくる。それからミシガン州のランドバンクとおっしゃった。県の参考事例かと思う。

（委員）

〇毎日関空で働いていて、皆さんご存知のように訪日観光客が激増、関空の増加率は史上最高です。去年１年間で１，３００万人、今年は半年間で既に９００万人に達している。このままでいくと単純計算で１，８００万人です。もしかすると２，０００万人を超える可能性もある。ものすごく早いスピードで増えている。関空でも同じ現象が起きている。どこでも同じことが起きている。毎日観光客と接していて、４月からは毎日、案内カウンターに出て、実際にお客様に接している。月平均で日本人も含めて１５，０００人位、日本人の割合がだんだん減ってきている。外国人がもの凄く増えている。外国人が余りに多すぎて、日本人が立ち寄れない場合も出ている。まるで外国人専用の案内所になっている。ＪＲも南海も空港全体が外国人であふれている。２、３階へ上がってみると、全部外国語で一番多いのが中国語です。他の外国人は２桁の増加だが、中国人は３桁の増加です。現場で身を持って感じている。朝から全部外国人の相手。この外国人は皆パスを買おうとしている。アジア系が多いが欧米系も増えている。パスで行き先が分かる。一番売れているのは大阪周遊パスです。１日と２日券があって、大阪市内の２８施設、文化施設、大阪城も入っていて、地下鉄乗り放題で、１日２，３００円、２日の場合は３，０００円で地下鉄、２８か所の施設、大阪城、空中庭園、観覧車、温泉施設で盛り沢山の２８施設、そんなに行けないが、凄くお得感がある。お得感は凄く外国人観光客を引き付ける。特にアジア系は。計算して得なら買う。ここからここまでどの位かかるのかをいちいち聞いてくる。まるで交通案内になってきている。交通パスが凄く売れているが、その代わりに交通パスが使えない所には行かない。滋賀県は残念ながら件数から見ても、去年と余り現場の感じでは変わらない。自然を求めている東南アジアの方が少しだが増えて来ている。冬はスキー、夏は自然。香港、台湾、韓国。行かれると思うが、窓口の件数は本当に少ない。大阪、京都とは比べ物にならない状況。滋賀

県は良い所と言っても既にパスを持っている。何年か前からもそうだが、パスを持って旅行される。

（委員）

○メディアを活用した販促ということをあげられているが、御存じのとおり、一時期凄く衰退していた熱海温泉で、ここ１０年、廃墟になった大型旅館が凄く問題になっていたが、今は活気が戻ってきている。私も色んなプロモーションをする時に、県の方、市の方にそれは何々課へ行ってください。それは警察に行ってください。たらい回しにされて、１つのことをするのに対して、色んなところに自分自身が問い合わせをしないといけないというのが、凄く面倒で、１か所でやってくれる所があったらそこを使おうという話になる。実際、熱海には、市役所で観光をやっている職員の方が、全てやってくださる。その方に言えばそういう面倒な手続きは全てやっていただけるという方がいて、その方がいるからどんどん熱海にそういうプロモーションが増えているという現状がある。もし本当に地元の活性を考えていただけて、役所の仕事はそういうことだと思っていただけるのであれば、そういう人を専用でつけるというのは難しいとは思うが、一歩踏み込んで、横断的な組織を作っていただいて、そこに問い合わせれば、全て解決するような所があれば、滋賀で何かをしようということを思った時に、やり易いのではないか。

○ＪＴＢに所属していて、来年、奈良・琵琶湖・滋賀で上半期にＰＲをやろうということになっているが、何をしていくのか、勿論、京都は寺社仏閣とか色々ある。滋賀は私たちが選ぶとなると、自然が目につく。日本中の印象に残る写真１００選を集めたいと思って集めた時に、実は滋賀県が一番集まった。幻想的な風景でも、琵琶湖は勿論そうなのだが、先ほど話のあったハスの花であるとか、一つ一つのポイントで写真を撮った時に滋賀が一番引き付けるものがあって、京都の写真が無い。京都はどこのお寺を撮っても一緒なのです。これを見に行かないといけないというインパクトのある写真が提供できなくて、滋賀の写真が６枚ピックアップされて、奈良と京都がない、どうしようと。逆に言えば、京都と奈良は集めても同じような写真が集まってくる。そういう面では是非、この風景を見てみたいという目に付くものを、先ほどのメディアにもつながるかも知れないが、打ち出してもらえば、何かヒントになるのではないかと思う。

○人口の件で気になったのが、滋賀には沢山の大学があって、その方々の減少をゼロにするという目標があったと思うが、そこが本当にできるのか。確かに優良企業が沢山ある

のは存じている。ただ、ここに居た大学生活が楽しくて、地元の方とのふれあいで、将来住もうと思った方が戻ってきてもらえれば、私は良いのではないかと思う。大学で過ごしたその町に、戻りたいと思えるような仕組みがあれば、一旦は仕事で違うところに行くかもしれないが、そういう人達が、家族と住むなら滋賀だと思えるようなまちづくりを視野に入れられたらどうかと思う。

（委員）

〇行政という立場で参加させてもらっている。先ほど、京都、大阪との連携が出ていたが、特にインバウンドに関して、彦根に沢山泊まるが、彦根城に行かずに翌朝、すぐに京都に行ってしまうという現状が出ている。できるだけ彦根市を回ってもらえる取組が必要だと思っている。

〇文化弱者、地域の人が自分の地域の文化を知らないという意見をいただいたが、彦根市でもそういうことは感じている。地域にも情報を発信していかないと、せっかく行政として取り組んでいても、なかなか理解されないと感じるので、そういったことも取り組んでいければと考えている。

〇今後の観光施策の構築だが、広域観光周遊ルートの部分については、関西広域と中部広域で２つ選定されている。できるだけ市町も県と連携して事業を進めていきたいので、できるだけ早く情報をいただけたらと思う。

（委員）

〇少しベーシックなことになるかも知れないが、人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略というのが、観光審議会で出てくるのは、急にはつながりが見えないというのがある。我々の認識が未だ低いのか。国全体もそうだが、滋賀県もそうだが、自分達が何で食べていくのかというのが、未だはっきり認識されていない感じがする。昔であれば工場を誘致したり、学校をつくったり、道路をつくったり、物を作って、そこで価値を作って、それで皆が食べて行くということだったと思う。

　先ほどから出ているように、今は、文化だとか、歴史だとか、自然、景観とか、イメージだとか、魅力だとか、そういうものが最初にあって、そこに宿泊施設とか、食べ物、お土産とかをくっ付けて、そこではじめて皆が、定住して食べていけるようになるという、大きくチェンジしているということだと思う。

　特に、市町に至っては、そういうことが出来ていないところは、ほとんど限界集落み

たいになっていく。無くなっていっている訳ですね。それはミクロの現象ですが。それが集積していくと、やがて県も、その理解が上手くいっていないと、やがて無くなっていくということだと思う。先ほどから大学生のことも出ているが、そういう教育も含めて、何かそういうものをもう１回、県全体で認識しておかないと、いつまでもワン・オブ・ゼムの観光で施策が進む気がする。

（会長）

〇委員の方々から幅広い、貴重な御意見をいただいた。まだ言い足りないと思うので、是非事務局へ御意見を寄せていただければ有り難い。時間の加減で先へ進めさせていただくことを、御了解いただきたい。

（オブザーバー）

◯私の方も大分耳の痛い話を聞かされた。縦割り行政、なかなか横のつながりが出来ていないというのは確かにある。何か言っていただいても、それはうちの仕事ではないという話が出てくる場合が多い。滋賀県の場合も、先ほど言われた農業関係とか、他の課ともっとつながりを持っていただいて、グリーンツーリズム、エコツーリズム、色んなツーリズムがあるが、大体のツーリズムが滋賀県にはあるのではないか。スポーツツーリズムであれば、高島のトレールランニング、グリーンツーリズムでも高島、エコツーリズムでも滋賀県全域でできるのではないか。色んなニューツーリズムがあるので、そういうものをもっと考えてもらえれば誘客の効果になると思う。

〇大阪、京都のおこぼれという話もあったが、なかなか京都、大阪は人を離さない。京都でも、今、これだけ観光客が来ていても、満杯でももっと入れたい。まだまだ来てないと思うのが、そこの市町村の思いである。そこに１，０００万人来ていて１，２００万人になったから、少し溢れたから１０万人位滋賀県に来るかというと、なかなか来ないのではないかと思う、最近は目的意識が強いように思う。もっと、どこからどういう人を呼びたい。その人達がいかにリピーターになってくれるか。先ほど、関空の委員の話があったが、滋賀県に来られる方が少ないという。滋賀県自体の知名度が低くても、琵琶湖の知名度が高くて、琵琶湖に行きたいという人が１回来れば、ここは滋賀だったのか、次は滋賀県に来たいという思いを持ってもらえれば、その人が２回、３回来られる。確かに６月までに９００万人位、外国人が来ている。２，０００万人になったから翌年も２，０００万人来るか、なかなか難しい。ですから、今、滋賀県に４，０００万人来られているお客さんが来年も来てくれるということを考えていかれたほうが良いと思う。

その人が２回目来られれば、その数は減らない。今来られている方を如何にして減らさないかということが、色んな所で話を聞いているが、色んな県の悩みだと思う。増やすよりも、今の数を維持することが問題だと私は思っている。

〇旅館、ホテルの関係だが、近畿圏内でもホテルは大阪、京都では９０％以上の稼働率があると聞いている。旅館は３０％から４０％位。客室稼働率なので定員稼働率にすると、旅館は１部屋４名位泊まれるので、もう少し下がる。滋賀県もホテルが少なくて、旅館が多い。大津であれば温泉旅館もあるので、やはりそういう旅館に外国人の方にどう泊まってもらうのか、国の命題でもあるし、多分旅館さんの命題でもあると思う。実際に地域で聞いていると、外国人が泊りに来られて、１泊２食が付くのを知らなかった。ご飯を食べて来られたら、また夕食があると言われた。２回目来た方はもう夕食があると分かっているので、それなりの時間に来られて、地元の食材を食べて、すごく喜んで帰られるというのがある。旅館をどう海外に発信していくというのも、私達にとっては１つの命題だと思う。旅館の泊まり方、旅館のシステムを分かってもらうのが、１つだと私たちは思っている。御協力いただくことがあると思うので、よろしくお願いする。

（オブザーバー）

〇ビジターズビューローは業界団体という面と、振興指針にも載っている観光振興の中核的組織という２つの面がある。まず、業界団体としての立場で申し上げると、会員である旅行事業者、旅館などの話を聞いていると、先ほどから話が出ているように、「インバウンドを含めて観光客が増えている割に、旅館の稼働率が上がっているかというと、まだ、一杯で困っているということもない。」という声の一方で、それぞれの旅館にしてもホテルにしても、何でもＯＫという訳でもなくて、修学旅行はどれ位、インバウンドはどれ位、国内はどれ位と分けているのが実態で、その辺は、バランスを結構、気にされている。先ほども話が出ていたが、京都が溢れて来ているというのが結構ある訳で、そんな中で出来るだけこの機会にしっかりとリピーターになってもられるように、滋賀県を評価していただけるようなお客さん、何とか滋賀県を選んで来ていただけるようにして欲しいというのが、業界の声としてあると思う。

〇一方で、中核的組織として、私共も県と協力してやらなければならない。先ほども御意見があったが、文化弱者の話が出ていたが、キャンペーンを打ち出すということと、中における観光資源の開発のバランスが取れていないといけないと思っていて、地域そのものが、佐藤典司先生もおっしゃっていたが、滋賀県はまだまだ観光自身を産業として

真正面に据えて取り組んでいるという所まで、全体として行っていないのではないかという気がしている。産業構造ということをまず考えることが大事だし、私共も先ほどビワイチの資源開発１５件、２０件というのがあったが、よく滋賀県には良いものがあるのに知られていないと言われているが、観光資源でなかったいいものを観光資源にするべく、明示化するというか開発して旅行業者の方に見ていただいて、それをツアーに作っていただくことをやってきた。今までそれなりの成果が上がって来ているとは思うが、まだまだ少ないし、団体中心になっている。今後のことを考えると、ビワイチを狙って個人が旅していただけるような、個人客を指向していかなければいけないと思う。

〇観光資源というのは見るもの、体験するものが中心であるが、観光産業ということを考えると、食べると、寝ると、土産を買うのがセットになってはじめて、そこで半日なり１日なり、滋賀県をきっちりと回っていただけるセットまで行かないと、なかなか個人客をしっかり誘致できないと思っている。外向けのキャンペーンに見合うような中身を市町、県で協力して、作っていく作業をしていかなければいけない。今日の御意見も参考にさせていただきたいと思うので、今後ともよろしくお願いする。

（会長）

◯本日は皆様から多岐にわたる貴重な御意見をいただいたので、県におかれては、本日の意見を踏まえて、来年度以降に向けた効果的な事業展開についてよろしくお願いする。本日は、限られて時間で十分に御意見、御提案いただけなかったと思う。ぜひ、事務局の方へ御意見をお願いする。

谷口観光交流局長あいさつ

＜閉　会＞

〇本日は非常にお忙しい所を長時間にわたり、貴重な御意見をいただき御礼を申し上げる。県が作っている観光指針の実現、そしてアクションプラン、先ほどの人口減少など、色々な課題があるが、それに活かせるように利用したいと思っている。

〇今日も沢山の意見をいただいたので、どれをどうして行こうかと思っているところだが、ただ、既に滋賀県全域ではないがそれぞれの地域で、私でしたら、マキノと敦賀で一緒にやったり、国定公園などでは他府県と一緒に国定公園協議会で色んなことをやったりとか、地域でも色んな事業をやっている。地域独自のいいものを、素材を活かしてやっ

てもらっている。着地型観光と言われるが、なかなか大きく育たない。続かない事業も結構ある。観光客の方が地域へ入られるので、その地域のいいものを実際に見てほしいと思っている。最初に日本遺産の話もあったが、今回は県内の６市ということではあるが、やはり地域の方に、先ほどあった文化弱者ではないが、地域の良さを知ってもらう。そして、地域の方だけではなく、他から移り住まわれた方、そういう方と一緒にすれば、地域の良さに再度気づくということになる。今までは観光というと、名所、旧跡に観光客が良く来られていたというのがあるが、例えば、高島の針江のような所、本当に今まで観光客が行かれなかった、住民が生活している現場へ入っていくという部分では、受け入れとかもかなり違ってくると思う。

〇そういう体制も必要だと思う。本日、委員は欠席ですが、前回もＤＭＯという話が出たと思うが、地域で着地型観光だけではなく、観光をキーにして観光を活かしたまちづくり、観光事業者だけではなく地域住民も一緒になって取り組まないと、その効果も半減してしまうということもある。色んな主体が入ることによって、化学反応を起こして、こんなことをやってみようとか、アグリビジネスもこんな展開ができるのと違うのとか、一緒にやったりすることにつながってくると思う。そういう部分を今回は日本遺産でどれだけ出来るか分からないが、そこではじめてみたいと思っている。皆さんのこれからの御協力も是非、よろしくお願いしたいと思う。本日はどうもありがとうございました。

以上